



2月

第102号

町立病院だより

平成30年2月

独立行政法人 国際協力機構（JICA）が来院しました



1月23日（火）に、バングラデシュ、エジプト、インドネシア、ケニア、ナイジェリア、セネガル、南アフリカ、スリランカ、タイ、ベトナム、ザンビアの11カ国から、医療及び保健政策に関わる行政官14名が視察研修のため町立病院と保健福祉センターを訪れました。

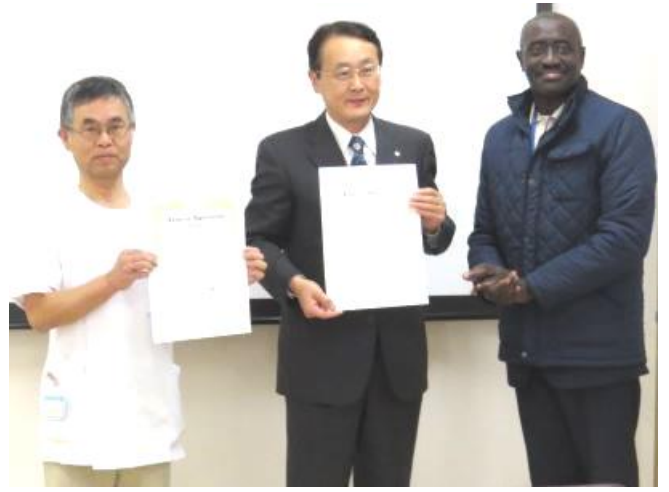
視察は、「独立行政法人 国際協力機構」（JICA）が窓口となっており、今年で4年目を迎えました。研修の冒頭、小鹿野町の協力に対して森真太郎町長、関口哲夫院長へJICAと参加者一同から感謝状が贈呈されました。

アジア・アフリカ各国では保険制度が整備されていないため、国民が平等に治療を受けられない国が数多くあり、国民が最低限の医療を大きな負担なく受けられる国民皆保険制度の整備が求められています。

平成25年5月に外務省が作成した「国際保健外交戦略」の中で、途上国等に日本の皆保険制度などの知見を発信していくこととしています。同戦略にそって、JICAがアジア・アフリカ諸国から各国の保険制度立案に関わる幹部職員を招き、2週間に渡り日本の医療供給体制や医療保険制度などを学ぶ内容となっております。小鹿野町への視察研修はその一環で唯一の病院研修となっており、国民健康保険制度や医療提供体制、町の地域包括ケアシステムなどについても興味を持って熱心に話を聞いていました。

当日は大雪の影響で到着が大幅に遅れましたが、町立病院の対応等をたいへん喜んでいただき、また来年も視察に来たいとのことでした。

今回の研修が各国の医療保険構築の一助になることを願っております。



面会制限のお知らせ

現在、インフルエンザが流行しているため、ご家族以外の面会につきましてご遠慮いただいております。全国的にインフルエンザが流行し、埼玉県ではインフルエンザの流行警報が発令されました。

秩父地域でも小中学校でインフルエンザによる学級閉鎖が多く報告されるなど、たいへん流行している状況です。

昨年の2月には、町立病院においても院内でインフルエンザが発生したため、患者さんのインフルエンザ等感染症の予防を目的として、お見舞い等の面会について制限をいたしました。期間がたいへん長期にわたったため、患者さんやご家族にたいへんなご不便とご迷惑をおかけしてしまいました。

今年は、西秩父の各診療所にご協力いただき、インフルエンザ患者の人数を毎日集計しています。これにより、西秩父地域でのインフルエンザの流行状況を把握することができるため、面会制限の開始や解除の指標として役立てることができそうです。

今回の面会制限は、この集計を基に判断したもので、西秩父地域でインフルエンザが終息したことが確認でき次第、制限を解除する予定です。インフルエンザが流行すると終息までに時間がかかりますので、マスクを着用するとともに、うがい、手洗い等の予防をしていただきますようお願いいたします。

皆様には、ご不便やご迷惑をおかけしますが、患者さんを感染症から守るため、ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。



☆ ドクター内田のひとりごと ☆ ～認知症についておもう～

⑪ 《 上手に取り繕って頑張りましょう！ 》

先日新年を迎えたかと思えばあっという間に2月です。新年の誓いをたてた方、3日坊主になっていませんか？大丈夫です。日本には“新年度”という言葉があります（笑）。

さて、1月の診察室では今年初めて来院された方と新年の挨拶を交わします。中には「病院でお世話になりますなんておかしい話ですが、今年もよろしくお願いします」と挨拶される方もおられます。私はみなさんに「どんなお正月でしたか？」と聞きますと、答えは皆さんそれぞれで、「大勢帰ってきてにぎやかだった」とか、「普段となんにも変わらない毎日でした」などと話されます。

数年前の1月のある日、いつもののぶえさんも診察室にやってきました。徐々に物忘れが進んでいるのぶえさん。私は一瞬、のぶえさんはお正月のこと覚えているかな？という思いが頭をよぎり、「お正月は何してましたか？」と尋ねました。すると、のぶえさんはすかさず「息してました」との返答。これには「やられた！」と思いました。その通り、私たちはいつも息しています。小学生のころ、何してんの？と問われ、答えたくない時には「息してました」なんて返したなあと思い出したことです。つまり、もしかするとのぶえさんは、何をしていたか覚えていない、でもそのことには触れたくないのだから「息してました」と答えたのではないかと。そんな気がしたのです。



認知症の方は、自分が忘れてしまったことに対して時に取り繕ったりします。作り話や被害妄想なども取り繕った結果の一つです。のぶえさんは「息してました」という表現でその場を取り繕ったのです。そのことはまちがいでない。むしろ、正解ですよね。

オードリー・ハップバーンがこんな言葉を残しています。

「年をとると人は自分に二つの手があることに気づきます。

ひとつは自分を助ける手。そして、もうひとつは他人を助ける手」

若い頃ヘルパーとして多くの人を助けてきたのぶえさん。時には自分を助ける手として、取り繕うことがあってもいいじゃないか。そんな気がしてきました。

そんな私たちも普段の生活の中で取り繕っていることはけっこう多いんですよ。ちょっと人によく見られようとしたり、いいこと言ってかっこつけようと思ったり・・・これらはすべて取り繕いなのです。そしてまさに、この病院便りに書いている私の文章も、どうやらそれなりに取り繕っている気がしてきました。そんなことを教えられた、ある日の診察でのぶえさんとの会話でした。

さあ、みなさん、今月も取り繕って頑張りましょう。

総合診療科 医師 内田 望

外来からのお知らせ

休診

総合診療科：2月 7日（水）伊藤Dr.

耳鼻咽喉科：2月15日（木）水足Dr.

婦人科：3月27日（火）小笠原Dr.

耳鼻科：4月17日（火）荒木Dr.

変更

眼科：4月21日（土）→4月14日（土）に日程変更

☆年に一度は「人間ドック」を受けましょう☆

お問い合わせ：総合健診センター（病院内）

直通電話：72-7510



〈発行〉 国保町立小鹿野中央病院 〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野300番地

電話（代表）0494-75-2332 FAX 0494-75-3313

〈ホームページ〉「国保町立小鹿野中央病院」で検索、または「小鹿野町」のホームページからどうぞ。